



慶應義塾大学ビジネス・スクール

住友信託銀行

——キャリア採用——

「“純血主義”はもう古い!?住友信託大幅に中途採用」という見出しで、昭和61年1月25日（朝刊）付の『朝日新聞』は次のように報じた。「住友信託銀行が中途採用の行員を公募し、面接での選考に入っている。大学を出てから十年程度、産業界などで様々な経験を積んだ30歳前後の若手を、同年代と同じ待遇で三年間に数十人迎え入れる計画だ。結束の固い旧財閥系で、しかも純血主義の銀行に似合わぬ大胆な試み、として注目を集めている。10
多様化する信託業務を進めるには外からの人材が必要、というのが同行の考えで、『忠誠心より実力で勝負するプロ集団を目指す』と、年功序列、終身雇用の企業秩序にあえて挑戦する構えだ。」

会社の概況

15

住友信託銀行は、大正14年創業の大手信託銀行である。昭和62年3月現在で、資本金は604億3千万円、経常利益は1,457億円、総資金量は18兆6,961億円である。従業員数は6,211人（男子3,637人、女子2,574人）、従業員の平均年齢は38.6歳（男子43.6歳、女子30.1歳）となっている。

同社は業界の中で、新しい商品の開発に定評があり、これまでにファンド・トラスト（昭和56年）、金信託（昭和57年）、土地信託（昭和59年）の開発を他社にさきがけて手掛けている。20

同社の組織図は附図1に示されている。同じ金融機関といっても、信託銀行には都市銀行とは異なり、多様な業務が存在する。

同社の事業の内容は附図2に示されている。信託業務とは、簡単に言えば、個人または法人から依頼されて、その財産の管理運用を行うことである。その対象は、単に金銭にとどまらず、不動産や有価証券等広範な領域に及んでいる。大きく分けて同社の事業は、信25

このケースはクラス討議の資料として用いるために、慶應義塾大学ビジネス・スクール石田英夫教授の指導の下に、八代充史が作製した。ケースは経営管理上の適切または不適切な処理を例示しようとするものではない。

このケースの著作権は慶應義塾大学ビジネス・スクールが所有している。1989年6月作製

（注）以下の記述は、同社からのヒアリングと共に、次の文献を参考にした。「住友信託銀行の大量中途採用、業務多様化に対応、即戦力で新風を」『日経ビジネス』昭和61年9月15日号、「住友信託銀行」『労政時報』第2828号（昭和62年4月10日）、三村守「都銀を襲う『人材革新』の衝撃波」『WILL』昭和62年10月号、「中途採用大研究」『NEXT』昭和63年1月号、「本格化した金融業界の中途採用」『Bing』昭和63年3月10日号。「改訂の動き急な金融業界の人事制度」『労政時報』第2873号（昭和63年3月25日）、「住友信託銀行の専門社員制度」『労政時報』第2867号（昭和63年2月12日）